

映画・映像・舞台芸術・防災等
に対応した
クラウド型情報保障サービス
の提供



NPOメディア・アクセス・サポートセンター
理事・事務局長 川野浩二

NPO法人メディア・アクセス・サポートセンターの川野と
申します。

15年前に聞いた当事者の声

私は死ぬまで
この映画を観る事が
できない

聴覚障害者

私が映像業界のエンジニアだった会社員時代、
「発売済DVDに字幕を付けて再発売してほしい」
と署名活動をされている、聴覚障害の方に出会いました。
字幕が無いので
「私は死ぬまでこの映画を観る事ができない」
という切実な声でした。



- スマートフォンで音声ガイド
- メガネ端末で字幕

技術で解決

現状の方法では、個別にいくら対応しても全てのメディアに波及しないと考え、技術で解決することにしました。

上流である劇場公開時、つまり、映画の製作時に字幕と音声ガイドを制作して、全てのメディアで使える方法でした。

それが音響同期システムを使った

「スマホで聴く音声ガイド」

「メガネで観る字幕ガイド」

でした。

UDCast

HELLO! MOVIE

「音響同期システム」という方法を考案（特許取得済）してから、UDCast、そして、HELLO!MOVIEというスマホアプリがサービスを実施しています。

音響同期システムの特徴

1 映画の音声による同期

(全てのメディアで対応)

2 字幕・音声等サーバーから

(アーカイブとその利用)

「音響同期システム」は、映画の音声のみで字幕や音声ガイドが同期するので、劇場の設備はならず、全国の映画館で使えます。

また、データはサーバーを使って配信しているので、明日の上映にも間に合う即効性があります。

このシステムに対応した作品は、DVDやBlu-ray、放送、配信など、全てのメディアに対応できます。

法律

2006年

1: 障害者権利条約(国際法)

2016年

2: 障害者差別解消法(国内法)

2018年

3: 障害者による文化芸術活動の
推進に関する法律(国内法)

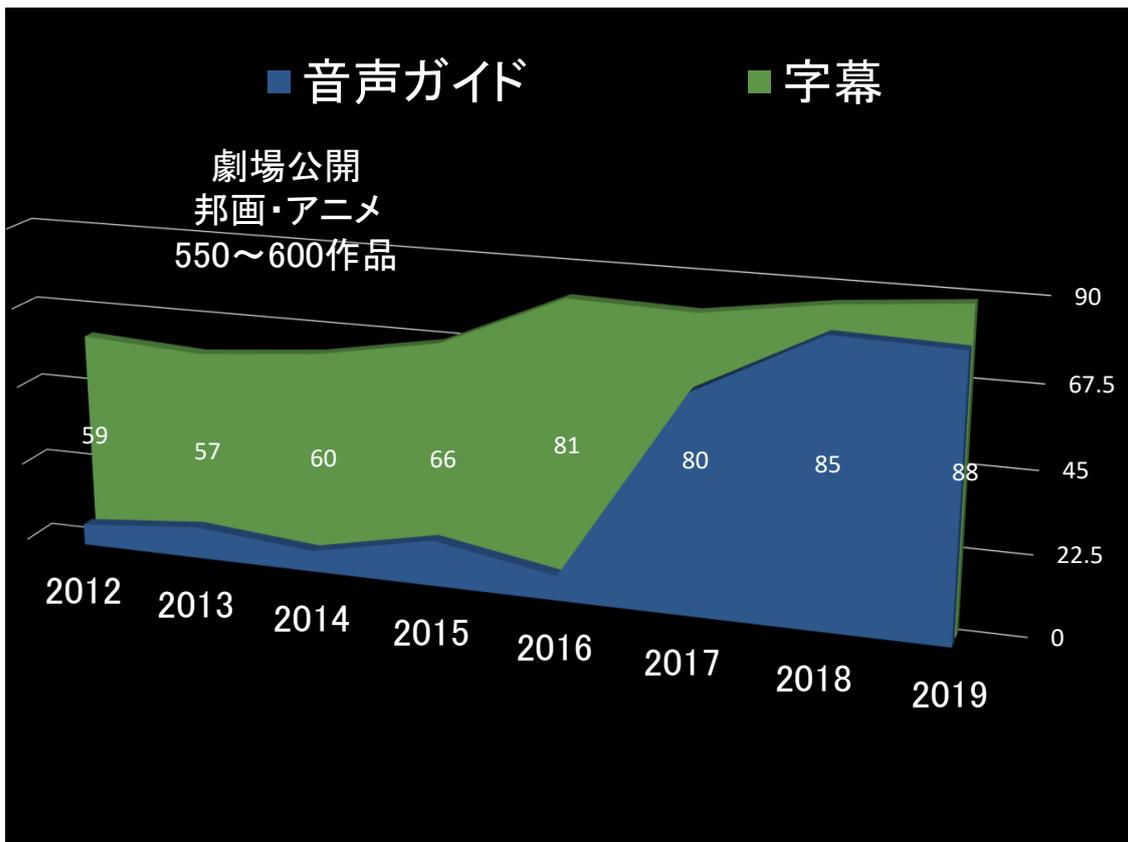
法律の整備も進んできました。



- 2009年 MASCO設立
- 2010年 映画館で音声同期システム実験開始
- 2011年 東京国際映画祭 バリアフリー企画開始
- 2013年 スマホアプリによる音声ガイド&字幕
- 2014年 UDCastにアプリ名変更(パラブラ社へ)
- 2015年 国内システム導入のための調査事業
- 2016年 全国映画館向け説明会実施 UDCast開始
- 2017年 UDCast 音声ガイド本格化
- 2018年 メガネ型端末による字幕配信開始
- 2019年 HELLO!MOVIE 字幕メガネ貸出開始

設立からの経緯になります。

技術が確立したからやりましょう、というのではなく、多くの実証実験や全国の映画館への説明など、時間をかけて普及させてきました。



これは2012年からの統計ですが、音響同期システムが始まった2016年から音声ガイドは10倍以上に増えました。

字幕については、字幕メガネのコストダウンと普及によって拡大していくと思います。

ご来場のお客様へ

映画の感動をみんなのものに

バリアフリー上映 実施中

「見えない、見えにくい方」「聞こえない、聞こえにくい方」が、
いつでも、どこでも映画が楽しめるように、新しい鑑賞システムで上映しています。



「音声ガイド」対応マーク

スマートフォンとイヤホンで
音声ガイドを聴く
お客様がいらっしゃいます。



音声ガイド用
スマートフォンと
イヤホン



「字幕ガイド」対応マーク

字幕を表示するメガネを使用
しているお客様がいらっしゃいます。
字幕ガイドは、年内導入予定



字幕ガイド用
ヘッドセットと
コントローラー



左記マークのある対応作品に限り、音声・字幕ガイドが必要な方にも
機器を使って同じスクリーンで映画をご覧いただけます。



盲導犬、聴導犬をお連れの場合がございます。

全国興行生活衛生同業組合連合会

映画館ではスマホの電源を切ることをお願いしてきたので、
一般の方への告知を強化しています。

このポスターは全国の映画館に掲示されていて、スマホや
メガネ端末を使っている方が居ることを伝えています。

業務用字幕メガネシステム完成



昨年、業務用の字幕メガネ貸出システムが完成し、東京国際映画祭でお披露目をしました。
157台の字幕メガネを一斉に使用しましたが、全て問題無く使えました。
この時は、バリアフリー字幕の他、英語字幕、中国語字幕を切り替えて表示させました。

開発が進むメガネ型端末



字幕メガネについては日本のメーカーが一番進んでいます。各社開発をしています。これまでマーケットが広がらず、普及が遅れていましたが「字幕表示」がカラーコンテンツになって、広がっていくと思っています。



これは開発途中のものですが、ほぼメガネですね。
このようなものが、眼鏡屋さんで普通に売られるよう
になったら、普及期になると思います。

舞台芸術

横浜能楽堂 本舞台
撮影: 神田 佳明



【お調べ】♪～
揚幕の向こう側にある「鏡の間」という所で
囃子方が各々の楽器（笛・小鼓・大鼓・太鼓）
の音色の調整と確認を行っております。

能や狂言などの舞台芸術の分野も、映画と同様のシステムで実験を重ねてきました。

既に劇団四季が始まっていますが、ここでも字幕メガネは有効です。

恐らく、障害者に限らず、字幕が欲しいという一般の方も多いと思います。

博物館



音響同期システムは、博物館のジオラマや展示映像でも使われるようになってきました。

映像ソフトへの波及

呼称統一

- ・バリアフリー日本語字幕
- ・バリアフリー日本語音声ガイド

DVD/Blu-ray 推奨仕様

呼称に関しては、障害者用という言葉無くして

「バリアフリー日本語字幕」

「バリアフリー日本語音声ガイド」

に業界で統一をしました。

字幕や音声ガイドは、必要な方が誰でも使えるものにしました。

この呼称統一によって、Amazon、楽天ブックス、7ネットなどのDVD, Blu-rayの販売サイトで「バリアフリー版」というボタンがついて、簡単に検索できるようになりました。

おわり

以上で成果発表を終わります。